



(エクスプローラー・プロフェッサーブランド)

出身レース 育ちストリート

Photo : Yoshitaka Takahara Text : Akira Okamoto

SSRラインナップの中でも一番のエース的な存在といえば「プロフェッサーブランド」。伝統の3ピース製法はレースシーンを経てストリートにその技術をフィードバックし、今も進化を続けている。ここでは歴史を深掘りして新旧プロフェッサーの魅力に迫る。

SSRの意味って知ってる？ 東急●パブルのCM的な質問をしたけど、ある程度年齢がいった方ならいざ知らず、Z世代はまず知らないんじゃないかな？ 答えは「スピードスターレーシング」の略。1976年に誕生したSSRは、当時国内トップカテゴリーだったF2000に参戦すると、デビュー戦でいきなり勝利をおさめる。80年代にはル・マン24時間レースやGroup C、さらにはフォーミュラマシンにもホイールを供給するなど、SSRの名前は世界で知られていく。2012年からは国内最高峰のSUPER GTやD1グランプリ、耐久レースなどに供給。SSRはモータースポーツシーンに欠かせないホイールブランドとして、カスタム好きならば知らぬモノはいない。

SSRにとって3ピースホイールは、誕生当初からモータースポーツで培ったノウハウを凝縮してきた重要な存在。それまでSSRの3ピースホイールといえばフォーミュラメッシュが代名詞だったが、2000年ころに34GT-Rをはじめとしたハイパフォーマンスカーが続々とリリースされ、ブレーキの大型化に対応するホイールが求められる。そこで、現代のハイパフォーマンスカーにマッチする3ピースホイールXスポーツをコンセプトに誕生したのが「プロフェッサー」なのだ。

第1弾となるプロフェッサーSP1が登場したのが2000年。力強くうねる幅広5本スポークを持ち、ディスク越しの見え方を追求した1



BASE CAR : 2021 AUDI A7 WHEELS : SSR PROFESSOR SP6 UNDER (F=20x10.5J-3 / R=20x10.5J-8) TIRES : NITTO INVOI(F&R=245/30-20) SUSPENSIONS : T-DEMAND (AIR-SUS SRIM3BAG / HARD LINE BUTTERFLYα V8 SYSTEM) T-DEMANDPROARM (FRONT UPPER-ARM / FRONT LOWERARM / TENSIONARM / TIERODEND / REAR UPPERARM / TOECONTROLARM / REAR TENSIONARM / SHORTKNUCKLE) BRAKE : T-DEMAND BRAKE SYSTEM

サスペンションのスペシャリスト「ティーデマンド」が、オシャレ系アウディの4番バッター・A7スポーツパックをバグド! “なんかカッコイイ”をテーマに、足だけでクルマの美しさを追求した1台で、フェンダーからのツラと、タイヤのトレッド面の出方、前後のタイヤの見え方を緻密に計算し、前8.8度/後9.8度キャンバーに仕立てていた。乗り心地と上がり幅を高めるため標準2段バグを入れるのだが、そのままではリアのアッパーとトーンに当たるため、逃がすような形状に仕立てているのがキモ。美しさ際立つスタイリングこそ、ティーデマンドの真骨頂なのだ。



トランクに置かれたティーデマンドのハードラインバッテリーの3タンク。溶接なしのシームレスなエアタンクとバイピングがスリキリとシメトリーに並ぶ。電磁弁やタンクにLEDを備え、ビジュアル性も追求している。

ミネルバからSSRのヘビーユーザーになったというティーデマンドの田中社長。すでに20年以上の付き合いで、絶大な信頼を置くホイールブランドである。右は企画・デザインでSSRを引っ張る土居サン。



アンダーヘッド & センターロックでスポーティさマシマシ!



MS4アンダーと同時に登場した新作モデルで、こちらは18~20インチをラインナップ。純ノリ気味のフラットな5本スポークを足長に見せるCLSパッケージとファスナーの立ち上がりを見事にバランス。アンダーディスクによるアウターリムの存在感も高めている。

2022NEW MODEL SSR PROFESSOR SP6 UNDER

SIZE : 18x7.0J-13.5J / 19x7.0J-12.5J / 20x7.0-12.5J H-PCD : 5H-100 / 5H-112 / 5H-114.3
COLOR : TITAN SILVER / PRISM DARK GUNMETAL PRICE : ¥91,300~¥139,700

プロフェッサーの最新作には、SSRがトップブランドであり続ける理由が隠れていた。常に最高を更新し続けるSSRの動向を見逃すな。

ロックキャップを取り付けるため、ピスが隠れないところがポイント。ベゼルのような硬質感のある小ぶりのセンターロックキャップに視線が惹きつけられる。

SP6 UNDERは順ソリ気味のフラットな5本スポークとステップリムをマッチング。CLSパッケージの硬質感と、アンダーヘッド構造によるアウターリムの存在感を引き立てるため、あえてブレンな5本スポークを取り入れているのが面白い。プロフェッサーでは18インチサイズ以上のモデルのインナーリムには、鍛造素材による熱処理リムを使用。ネガキャンやローダウン、扁平タイヤにより、ますます負担がかかるインナーリムを軽く、強く、安全に仕立てる。

MS4 UNDERは、16インチに特化した小径モデル。コンパクトカーから、NA/NBロードスターといった80~90年代のスポーツカーにドンズバなスタイリングだ。SP6 UNDER同様、CLSパッケージとアンダーヘッド構造に目を向けるため、あえてシンプルでデザイン性の7交点メッシュを採用。実質14インチサイズの凝縮したスペースのなかでどう魅せるかを追求。そこで出した答えが、開口部を大きくとれるファスナーを極薄く立ち上げ、リムの深みを引き出す手法だ。SSRのデザイン巧者ぶりが見える。



軽量を追求して生まれたモデル。スーパーGTで採用するレーシングホイールの3Pバージョンで、応力の分散に優れているスポークバランスが特徴。センターから伸びる極細かつ足長10本スポークと熱処理インナーリムは剛性の高さも特筆すべき部分だ。

SSR PROFESSOR SP5

SIZE : 18x7.0J-13.0J / 19x7.0J-12.5J / 20x7.0-12.5J
H-PCD : 5H-100 / 5H-114.3
COLOR : HIGH BRIGHT SILVER / HIGH METAL BRONZE
PRICE : ¥84,700~¥133,100



デュアル5本スポークのSPXは、動きのあるディスク形状が特徴。シリーズのなかで最深のコンケイブディスクを採用したモデルで、スタンダードとスーパーコンケイブではディスクの高低差が24.1mmもあり、前後で表情の違うディスクを装着できる。

SSR PROFESSOR SPX

SIZE : 16x6.0J-8.5J / 18x7.0J-13.0J / 19x7.0J-12.5J / 20x7.0J-12.5J
H-PCD : 4H-100 / 5H-100 / 5H-114.3
COLOR : HIGH METAL BRONZE / PRISM DARK GUNMETAL
PRICE : ¥66,000~¥136,400

CLS(センターロックスタイル)パッケージにも注目。レーシングカーではスピードにホイールを交換するためにセンターロックが一般的だが、そのデザインを取り込んだのがCLSパッケージだ。専用プレートビスで留め、そのうえからセンター



7交点メッシュディスクにステップリムを合わせた最新モデル。ディスクをアウターリムの内側にセットするアンダーヘッド構造と、レースマシンが採用するセンターロックをデザインとして取り込んだCLS pkgを融合。16x6.0~8.5Jと小径サイズを用意する。

2022NEW MODEL SSR PROFESSOR MS4 UNDER

SIZE : 16x6.0-8.5J
H-PCD : 4H-100
COLOR : TITAN SILVER / PRISM DARK GUNMETAL
PRICE : ¥69,300~¥74,800



プロフェッサー第1弾モデル。3P×スポーツをコンセプトに、5本スポークとディープリム、そしてビッグキャリバーに対応するブレーキの逃げを考えたデザインを採用。見た目は太いが、センターを抜いた薄いスポークが特徴。P.C.D98~130と装着できる車種も幅広い。

SSR PROFESSOR SP1

SIZE : 18x7.0J-13.0J / 19x7.0J-12.5J / 20x7.0-12.5J
H-PCD : 4H-100 / 4H114.3 / 5H-100 / 5H-114.3
COLOR : SILVER / BLACK
PRICE : ¥84,700~¥133,100

本だ。センターを薄くすることで軽量化にも寄与。リバーシブル全盛の時代にあって、あえてステップリムによるディープリムを押し出し、ステップリム復権の先鞭をつけた。

3ピースで軽さを極めたのがSP5。3ピースは重いというイメージを払拭し、レースやドリフトでも使える高いポテンシャルを持つフットギアとして、3ピースホイールに新たな価値を指し示してくれた。

プロフェッサーにコンケイブデザインを持ち込んだのがSPX。ツラを攻めるほどに際立つディスクの高低差を見せつけるホイールとして、ドリフトはもちろん、シャコタンマニアたちからの人気となっている。

それぞれ明確なテーマを持って誕生するプロフェッサーのホイール群に、新たに2本のモデルが登場した。5本スポークの「SP6 UNDER」と、7交点メッシュの「MS4 UNDER」がそれ。ネームに入れられた「UNDER」とは、通常アウターリムの上にディスクを載せてピアスポルトで固定するところを、アウターリムの下にディスクを入れ込んで組み付ける構造のこと。こうすることで、アウターリムが隠れることなく、リムの深さを最大限にアピールできる。